

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2001-81320  
(P2001-81320A)

(43) 公開日 平成13年3月27日 (2001.3.27)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード <sup>*</sup> (参考)
C 0 8 L 77/08		C 0 8 L 77/08	
A 6 1 K 7/02		A 6 1 K 7/02	Z
			A
	7/027	7/027	
	7/031	7/031	
審査請求 有 請求項の数28 O L (全 8 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号	特願2000-216715 (P2000-216715)	(71) 出願人	391023932 ロレアル L O R E A L フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14
(22) 出願日	平成12年7月17日 (2000.7.17)	(72) 発明者	ヴェロニク フェラリ フランス国 94700 メゾン-アルフォー ル, リュ ヴィクトル ユゴー 12
(31) 優先権主張番号	9 9 0 9 1 7 6	(74) 代理人	100109726 弁理士 園田 吉隆 (外1名)
(32) 優先日	平成11年7月15日 (1999.7.15)		
(33) 優先権主張国	フランス (F R)		
(31) 優先権主張番号	0 0 0 0 9 2 2		
(32) 優先日	平成12年1月24日 (2000.1.24)		
(33) 優先権主張国	フランス (F R)		

(54) 【発明の名称】 ポリアミド末端エステルでゲル化した液状脂肪相を含有する組成物

(57) 【要約】

【課題】 光沢を保持するために、ロウを含有しないスティック状化粧品組成物を提供する。

【解決手段】 エステル基によって骨格に結合した少なくとも4つの炭素原子を有する少なくとも1つの末端アルキル鎖またはアルケニル鎖を有する少なくとも1つのポリアミド骨格ポリマーであって、少なくとも1つの室温で液状のHLBが8未満である両親媒性化合物に結合したポリマーによって構造化された液状脂肪相を含有せしめ、構造化された組成物とする。

## 【特許請求の範囲】

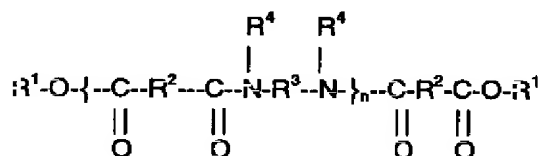
【請求項1】 エステル基によって骨格に結合した少なくとも4つの炭素原子を有する少なくとも1つの末端アルキル鎖またはアルケニル鎖を有する少なくとも1つのポリアミド骨格ポリマーであって、少なくとも1つの室温で液状のHLBが8未満である両親媒性化合物に結合したポリマーによって構造化された液状脂肪相を含む、構造化された組成物。

【請求項2】 ポリマーのエステル基はエステル基とアミド基の全数の10から50%であることを特徴とする請求項1に記載の組成物。

【請求項3】 ポリマーの平均分子量が1000と10000の間、好ましくは2000と8000の間であることを特徴とする請求項1または2に記載の組成物。

【請求項4】 ポリマーが下記に示す化学式(1)：

【化1】



「ここにおいて、nはエステル基とアミド基の全数の10%から50%を占めるエステル基のようなアミド単位の数を示す整数である；R<sup>1</sup>はそれぞれ独立に少なくとも4つの炭素原子、好ましくは4から24の炭素原子を有するアルキルまたはアルケニル基；R<sup>2</sup>はその少なくとも50%がC<sub>30</sub>からC<sub>42</sub>の炭化水素基である条件でそれぞれ独立なC<sub>4</sub>からC<sub>42</sub>の炭化水素基；R<sup>3</sup>はそれぞれ独立な少なくとも2つの炭素原子、水素原子及び場合によっては1つまたは複数の酸素または窒素原子を有する有機基、R<sup>4</sup>はそれぞれ独立な水素原子、C<sub>1</sub>からC<sub>10</sub>のアルキル基またはR<sup>3</sup>との直接結合、または、R<sup>4</sup>-N-R<sup>3</sup>で規定される複素環構造の一部を構成するR<sup>3</sup>とR<sup>4</sup>に結合した窒素原子であり、R<sup>4</sup>の少なくとも50%が水素原子である」で表されるポリマーあるいはその混合物から選択されることを特徴とする請求項1ないし3のいずれかに記載の組成物。

【請求項5】 ポリマーのエステル基はエステルとアミドの全数の20から35%を占めることを特徴とする前記請求項1ないし4のいずれかに記載された組成物。

【請求項6】 R<sup>1</sup>がC<sub>12</sub>からC<sub>22</sub>の範囲のアルキル基であることを特徴とする前記請求項4または5に記載の組成物。

【請求項7】 R<sup>2</sup>は30から42の炭素原子を有する炭化水素基であることを特徴とする請求項4から6のいずれかに記載の組成物。

【請求項8】 R<sup>3</sup>がC<sub>2</sub>からC<sub>36</sub>の範囲であることを特徴とする請求項4ないし7のいずれかに記載された組成物。

【請求項9】 両親媒性化合物が極性部に結合した親油性部を有し、当該親油性部は少なくとも8個の炭素原子、好ましくは16から32の炭素原子、さらに好ましくは18から28の炭素原子を有する炭素含有鎖を有することを特徴とする請求項1ないし8のいずれかに記載の組成物。

【請求項10】 前記極性部が1から12のヒドロキシル基を有するアルコールまたはポリオール、少なくとも2つのオキシアルキレンと0から20のオキシプロピレン及びまたは0から20のオキシエチレン単位を有するポリオキシアルキレンから選択された残基であることを特徴とする請求項9に記載の組成物。

【請求項11】 両親媒性組成物が、オクチルドデカノール、グリセロール、ソルビタンまたはメチルグルコースのヒドロキシステアラート、オレアート、イソステアラートから選択されることを特徴とする請求項1ないし10のいずれかに記載の組成物。

【請求項12】 両親媒性化合物が組成物の全重量の0.1から35%、好ましくは2から15%であることを特徴とする請求項1ないし11のいずれかに記載の組成物。

【請求項13】 ポリマーが組成物の全重量の0.5から80%、好ましくは5から40%であることを特徴とする請求項1ないし12のいずれかに記載の組成物。

【請求項14】 液状脂肪相が無極性の液状油またはその混合物を50%以上含有することを特徴とする請求項1ないし13のいずれかに記載の組成物。

【請求項15】 液状脂肪相が鉱物性または合成由来の炭化水素油を少なくとも1種含有することを特徴とする請求項1ないし14のいずれかに記載の組成物。

【請求項16】 脂肪相がパーリウム油、イソパラフィン、スクアレン油、またはその混合物を少なくとも1種含むことを特徴とする請求項1ないし15のいずれかに記載の組成物。

【請求項17】 油相が組成物の総重量の5から99%、好ましくは20から75%を占めることを特徴とする請求項1ないし16のいずれかに記載の組成物。

【請求項18】 手入れ用組成物、トリートメント用組成物またはメイクアップ用組成物であることを特徴とする請求項1ないし17のいずれかに記載の組成物。

【請求項19】 さらに少なくとも1種の着色物質を含有することを特徴とする前記請求項1ないし18のいずれかに記載の組成物。

【請求項20】 着色物質が親油性着色物質、親水性着色物質、顔料、真珠光沢剤あるいはこれらの混合物から選択されたことを特徴とする請求項1ないし19のいずれかに記載の組成物。

【請求項21】 着色物質が組成物の全重量の0.01から40%の間、好ましくは5から25%の間であることを特徴とする請求項1ないし20のいずれかに記載の組成物。

組成物。

【請求項22】 水、抗酸化剤、精油、保存料、中性化剤、油溶解性ポリマー、フィラー、香料あるいはこれらの混合物から選択された少なくとも1種をさらに含有することを特徴とする請求項1ないし21のいずれかに記載の組成物。

【請求項23】 エステル基によって骨格に結合した、少なくとも4つの炭素原子を有する少なくとも1つの末端アルキル鎖またはアルケニル鎖を有する少なくとも1つのポリアミド骨格ポリマーであって、少なくとも1つの室温で液状のHLBが8未満である両親媒性化合物に結合したポリマーによって構造化された少なくとも1つの液状脂肪相を含む化粧品として許容される媒体を含む、構造化された組成物。

【請求項24】 型に流し込まれたものであることを特徴とする請求項1ないし23のいずれかに記載の組成物。

【請求項25】 マスカラ、アイライナー、ファンデーション、口紅、頬紅、デオドラントまたはメイクアップ除去剤、体のメイクアップ用製品、アイシャドウ、抗小じわ製品の形態であることを特徴とする請求項1ないし24のいずれかに記載の組成物。

【請求項26】 顔料を含有することを特徴とする請求項1ないし25のいずれかに記載の組成物。

【請求項27】 ケラチン物質に請求項1ないし26のいずれかに記載された組成物を適用することを含む、ヒトのケラチン物質の手入れ、メイクアップ、またはトリートメントの方法。

【請求項28】 エステル基によって骨格に結合した、少なくとも4つの炭素原子を有する少なくとも1つの末端アルキル鎖またはアルケニル鎖を有する少なくとも1つのポリアミド骨格ポリマーであって、少なくとも1つの室温で液状のHLBが8未満である両親媒性化合物に結合したポリマーによって構造化された液状脂肪相の組成物の構造化のための使用。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、皮膚、毛髪を有する皮膚および唇の手入れ、トリートメントまたはメイクアップのための組成物であって、液状油分、ポリマー状のゲル化剤を含有する特に口紅のようなスティック状の製品であって、光沢を与え、にじまない製品に関するものである。

【0002】

【従来の技術】化粧品または皮膚科学的製品においては、ゲル化および固形化のために構造化された液状油分を使用することが一般に行われている；たとえば、デオドラント、口紅、リップクリーム、隈とり、あるいはファンデーションの場合がそうである。この固形化はロウあるいは添加成分によって実現される。しかし残念なが

ら、ロウや添加成分は組成物にマットな性質を与える傾向があるが、特に口紅の場合にはこの傾向は歓迎されない；女性は常に棒状の口紅で輝きのある物を強く求めている。

【0003】本明細書において液状油相とは、室温25℃、大気圧760mmHgにおいて液状の油分であって、室温で液状の単一または互いに相溶性を有する複数の液状油分によって構成される、オイルとも称する、液状の油相をいう。

【0004】液状油相を構造化することによって、固形成分の浸出、特に皮膚や唇に塗った後で油相の皸や小じわへのにじみを押さえることができるが、この性質は口紅の場合には特に必要な性質である。着色物質を含有する油相が滲み出すことは、唇の回りの美観を損ない、皸や小じわを強調することになる。このようににじみは、従来の口紅の重大な欠点として女性から指摘されている。

【0005】光沢は基本的に液状油相の性質に関連するものである。したがって、ロウとフィラーの量を減らして光沢を増進させることも可能ではあるが、こうすると液状油分のにじみが増加する。別な言い方をすれば、好ましいにじみ耐性を付与するためにはロウと添加成分が必要であるが、これらのために塗ったときの光沢が損なわれることになる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本出願の発明者は、ロウを含有するスティックが光沢を失うのは、当該組成物の不均質な結晶構造に起因するものであることを発見した。この知見に基づき、ロウを含有しないスティックを製造することを目標とする。

【0007】本発明は、皮膚や唇の手入れ、メイクアップあるいはトリートメント用の組成物であって前述のような欠点を有しないものを目的とする。発明者は、驚くべきことに、特定のポリマーを使用することで、ロウ無しで液状油分をスティック状に整形することができ、唇等に塗ったときに光沢を有して同時ににじみを生じないことを発見した。

【0008】本発明は口紅のように唇をメイクアップするための製品だけでなく、皮膚、頭皮や唇の手入れやトリートメントのための製品、たとえば顔の皮膚を太陽から保護するためのスティック状の製品、顔だけでなく体を含めた皮膚のメイクアップ用の製品、スティック状あるいはコンパクト状のファンデーション、抗小じわ用製品、刺青模様用の製品、スティック状デオドラント製品のような衛生関連製品、クレヨン状アイライナーやマスカラのような目のメイクアップ製品に適用することができる。

【0009】

【課題を解決するための手段】より詳細には、本発明の対象は、エステル基によって骨格に結合した少なくとも4

つの炭素原子を有する少なくとも1つの末端アルキル鎖またはアルケニル鎖を有する少なくとも1つのポリアミド骨格ポリマーによって構造化された液状脂肪相を含み、構造化された組成物である。当該ポリマーは室温で液状でHLBが8未満の液体に結合している。

【0010】HLBは、親水性／親油性の比率である。本発明においては、室温25℃、大気圧の下で両親媒性である複数の化合物を使用することができる。好ましくは、両親媒性化合物またはその混合物は、HLBが1から7の間、好ましくは1から5の間、さらに好ましくは3から5の間である。この両親媒性化合物はヘテロ原子ポリマーの構造化を補強し、スティックの形成を容易にして特性を向上させる機能を有する。

【0011】「少なくとも1つの末端基」とは1つまたは複数の末端基を意味する。「ポリアミド」とは2つ以上のアミドの繰り返し単位を有するものを意味する。

【0012】本発明のポリマーは油脂鎖に起因して、油に良く溶解し（水には溶解しない）、脂肪鎖を有しない従来技術のポリマーとは異なり、ポリマーの比率が25%以上であってもミクロに均質な組成物を構成する。

【0013】

【発明の実施の形態】このポリマーは好ましくは、少なくとも32の炭素原子（好ましくは32から44の炭素原子）を有するジカルボキシル酸と、少なくとも2つの炭素原子（好ましくは2から36の炭素原子）を有するジアミンの重合によって得られるものである。二酸は好ましくは、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、ヘキサメチレンジアミン、フェニレンジアミン、エチレントリアミン、さらに好ましくはエチレンジアミン等のような少なくとも16の炭素原子を有する二量の脂肪酸である。末端に2つのカルボキシル酸を有するポリマーとしては、カルボキシル酸を少なくとも4つの炭素原子、好ましくは10から36の炭素原子、さらに好ましくは12から24の、もっと好ましくは16から24の、例えば18個の炭素原子を有するものアルコールでエステル化するのが好ましい。

【0014】本発明にかかる組成物はペースト、固体、クリーム状態で提供することができる。当該組成物は油中水、水中油、無水ゲル、固体または柔らかな組成物の性状を取ることができる。好ましくは、半透明または透明な無水ゲル、特にスティックまたはコンパクトに流し込んだ透明な無水ゲルであることが望ましい。

【0015】好ましくは、本発明の組成物に使用するポリマーは平均分子量が1000から10000の間、好ましくは2000から8000の間である。

【0016】本発明において組成物を構造化するポリマーは、室温25℃、大気圧760mmHgでは変形しない固体である。当該ポリマーは、組成物を不透明化することなく構造化することができる。

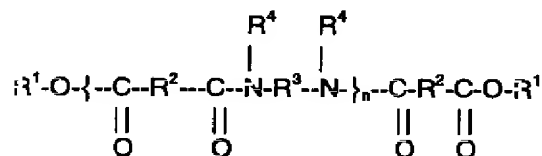
【0017】本発明の構造化を行うポリマーは好ましく

は、70℃以上で190℃までの軟化点を有する。好ましくは、軟化点は80から130℃の範囲、さらに好ましくは80℃から105℃の範囲である。この軟化点温度は従来知られている構造化ポリマーの軟化点に比較すれば低く、本発明のポリマーは使いやすく、液状油相の劣化が抑えられる。

【0018】好ましくは、ポリマーのエステル基はエステルとアミドの全数の10から50%、好ましくは20から35%を占める。

【0019】このポリマーは例えばユニオンキャンプの米国特許第5783657号に開示されているようなものである。このポリマーは何れも以下の化学式（I）を満足する。

【化2】



ここにおいて、nはエステルとアミドの基の数の10%から50%を占めるエステル基のようなアミド単位の数を示す整数である；R<sup>1</sup>はそれぞれ独立に少なくとも4つの炭素原子、好ましくは4から24の炭素原子を有するアルキルまたはアルケニル基；R<sup>2</sup>はその少なくとも50%がC<sub>30</sub>からC<sub>42</sub>の炭化水素基である条件でそれぞれ独立にC<sub>4</sub>からC<sub>42</sub>の炭化水素基；R<sup>3</sup>はそれぞれ独立に少なくとも2つの炭素原子、水素原子及び場合によっては1つまたは複数の酸素または窒素原子を有する有機基、R<sup>4</sup>はそれぞれ独立に水素原子、C<sub>1</sub>からC<sub>10</sub>のアルキル基またはR<sup>3</sup>との直接結合、または、R<sup>4</sup>—N—R<sup>3</sup>で規定される複素環構造の一部を構成するR<sup>3</sup>とR<sup>4</sup>に結合した窒素原子であり、R<sup>4</sup>の少なくとも50%が水素原子である。

【0020】nは好ましくは1ないし5の整数である。好ましくは、R<sup>1</sup>はC<sub>12</sub>からC<sub>22</sub>、好ましくはC<sub>16</sub>からC<sub>22</sub>のアルキル基である。好ましくは、R<sup>2</sup>は、C<sub>10</sub>からC<sub>42</sub>の炭化水素（アルキレン）基である。好ましくは、R<sup>2</sup>のうちの少なくとも50%、さらに好ましくは少なくとも75%が30から42の炭素原子を有する基である。また、R<sup>2</sup>は、C<sub>4</sub>からC<sub>19</sub>さらに好ましくはC<sub>4</sub>からC<sub>12</sub>の水素を含む基である。好ましくは、R<sup>3</sup>は、C<sub>2</sub>からC<sub>36</sub>の炭化水素を含む基またはポリオキシアルキレンを含む基であり、R<sup>4</sup>は水素原子を表す。

【0021】炭化水素基は直鎖、環状または分岐を有する基で、飽和または不飽和である。また、アルキルまたはアルキレン基は直鎖または分岐化した、飽和または不飽和の基である。

【0022】液状脂肪相の構造化は、化学式（I）で示

される1種または複数種類のポリマーによって行われる。一般に、化学式(I)で示したポリマーは、混合ポリマーであり、この混合物はそれ以外に合成に係る生産物、化学式(I)においてnが0の、つまりジエステルを含む。

【0023】本発明において構造化のために使用することができるポリマーの例として、ブッシュボークアレン社がユニクリア80およびユニクリア100の名称で販売する製品を使用することができる。これらの製品は、鉱物オイルの中に80%ゲル(活性物質)、および100%ゲル(活性物質)化した状態で販売されている。これらの軟化点は88℃から94℃である。これらの製品はエチレンジアミンに凝縮された $C_{36}$ の二酸のコポリマーの混合物であって平均分子量は6000程度である。末端のエステル基はセチルアルコール、ステアリンアルコール(セチルステアリンアルコールとも称する)またはこれらの混合物で末端の酸をエステル化した結果物である。

【0024】本発明の組成物において使用することができる両親媒性組成物は、極性部に結合した親油性部を有し、当該親油性部は少なくとも8つの炭素原子、好ましくは18から32の炭素原子、さらに好ましくは18から28の炭素原子を有する炭素含有鎖からなる。好ましくは、この両親媒性化合物の極性部は、1から12のヒドロキシル基を有するポリオールかアルコール、少なくとも2つのオキシアルキレン単位、0から20のオキシプロピレン単位および/または0から20のオキシエチレン単位を有するポリオキシアルキレンである。特に、この両親媒性化合物は、グリセロール、ソルビタンまたはメチルグルコースのヒドロキシステアレート、オレート、イソステアレート、あるいは、オクチドデカノールのような $C_{12}$ から $C_{26}$ の分岐を有する化脂肪酸アルコール、あるいはこれらの混合物である。これらのエステルのうちで、モノエステルまたはモノエステルとジエステルの混合物が好ましい。

【0025】ポリアミドの特性と両親媒性の特性によって変更することができるオイルの構造化とゲル化は棒状あるいはスティック状の固さを付与することができる程度のものである。

【0026】本発明においては組成物が20から2000gの硬度、このましくは20から900gの硬度、さらに好ましくは20から600gの硬度、最も好ましくは150から450gの硬度を有するように両親媒性とポリマーの量を調整する。硬度を測定するにはゾンデを押し込むことが行われるが、具体的にはTA-XT2やRheoのような直径8mm、高さ25mmのエボナイト製の円柱を具備した計測器を使用して行われる。円筒を組成物からなる供試体に最初に2mm/秒、つづいて0.5mm/秒、再度2mm/秒の所定の速度で押し込み、押し込み量の合計は1mmである。この際の最大力

が硬度単位として用いられる。測定誤差はプラスマイナス50gである。

【0027】硬度は、バターをカットするための繊維を使用して測定することもできる。この場合は、100mm/分の速度で動くインデルコーシャティオン社製のダイナモ計DFGHS2を使用して、20℃で、8.1mmの口紅を切断する。結果は、この条件で口紅を切断するために要したグラム単位で表現された切断力の大きさを表現される。この方法によって場合は、本発明による口紅の硬度は30から150g、好ましくは30から120g、さらに好ましくは30から50gである。

【0028】本発明にかかる組成物の硬度は、組成物が形状を維持することができ、皮膚や唇に容易に塗ることができるような値である。また、これらの硬度を有する本発明の組成物は外力に対して十分な強度を有する。

【0029】本発明による、スティック状の組成物は容易に変形可能な弾性的固体であって、塗布する際の柔らかな感触が顕著である。従来技術のスティックはこのような弾性感や柔らかさを有していなかった。

【0030】具体的には、ポリマーの量(活性物質)は組成物全体に対して0.5から80%、好ましくは5から40%である。両親媒性化合物の量は組成物全体に対して0.1から35%、好ましくは2から15%である。

【0031】棒状製品は着色物質を含むので、塗布の後、光沢の有る、均質な色合いの特に唇の周りや目の周りの皺や小じわににじみ出ないものである。本発明にかかるポリマーは、非常に多くの種類のオイルに溶解し得るものである。

【0032】好ましくは、組成物の液状油相はヘテロ原子を有する要素と同様の反応基を有する液状オイルを少なくとも40%以上、好ましくは50%以上含有する。特に、ポリアミド型の骨格によって構造化された液状油脂層が大部分の量を占め、液状油相、炭化水素を有することのある極性を有する液状オイルまたはその混合物の50%以上の重量を占める。

【0033】本発明に使用することができる無極性のオイルは、揮発性または不揮発性の、直鎖または環状の、室温で液状の、ポリジメチルシロキサン(PDMS)のようなシリコンオイル等である；ポリジメチルシロキサンはシリコン鎖の末端または中間部に、2から24の炭素原子を有するアルキル、アルコキシまたはフェニル基を有する；フェニル基を有するシリコンとしてはフェニルトリメチコン、フェニルジメチコン、フェニルトリメチルシロキシジフェニルシロキサン、フェニルジメチコン、ジフェニルメチルジフェニルトリシロキサン、2-フェニルエチルトリメチルシロキシシリケート；合成または鉱物性の、揮発性または不揮発性の、直鎖または分岐を有する炭化水素またはフルオロカーボンであって、例えば、イソパラフィンやイソドデカンのような揮

発性または不揮発性のワセリンおよびその誘導体、ワセリン、ポリデセン、パーレム(parleam)、スクアレン及びその混合物のようなポリイソブテン水素である。好ましくは、構造化されたオイル、より具体的にはポリアミドで構造化したオイル特に具体的には化学式(I)で表される構造化された化学式(I)であらわされるオイル、ポリウレタン、ポリ尿素、ポリ尿素-ポリウレタンは鉱物性あるいは合成にかかる無極性の炭化水素を含むオイルであり、炭化水素としてはパルレウムオイルのようなアルケン、イソドデカンのイソパラフィン、スクアレン及びこれらの混合物である。

【0034】無極性のオイル二極性オイルを加えることは可能であり、無極性オイルは極性オイルの共媒体として作用する。

【0035】本発明で使用するができる極性オイルとして以下のものを挙げることができる：

—脂肪酸エステルとグリセロールから構成されるトリグリセリドの多い炭化水素を有する植物性油であって、脂肪酸が長さの異なる、直鎖または分岐を有する鎖を有し、飽和または不飽和であるオイル；前記オイルは、例えば小麦、とうもろこし、ひまわり、シアバター、ヒマ、アーモンド、マカダミア、アプリコット、大豆、ナタネ、綿、ウマゴヤシ、ケシ、ボチマロン、ゴマ、かぼちゃ、アボカド、ヘーゼルナッツ、ぶどうやカシスの種、マツヨイグサ、イネ科の穀類、大麦、キノア、オーブ、ライ麦、ベニバナ、バンコールアブラギリ、パッションフルーツ、バラ科の植物の胚芽オイル；ステアリヌリデュボア社から販売されているあるいはダイナミットノーベル社からミグリオル810、812または818の名称で販売されているカプリル/カプリン酸のトリグリセリド；

— $R_5COOR_6$ の化学式で表される合成オイルまたはエステル、ここで $R_5$ は1から40、好ましくは7から19の炭素原子を有する直鎖または分岐を有する高級脂肪酸残基、 $R_6$ は1から40好ましくは3から20の炭素原子を有する分岐を有する炭化水素鎖を表し、例えばビューセリンオイル(ケトステアリのオクタノート)、イソノニルのイソノナノエート、 $C_{12}$ から $C_{15}$ のアルコールのベンゾエート、イソプロピルのミリステート、エチル-2-ヘキシルのパーミエート、アルコールまたはポリアルコールのオクタノエート、デカノエートまたはリシノリエートのような $R_5 + R_6 > 10$ または $R_5 + R_6 = 10$ の関係を満たす炭化水素鎖；イソステアリのラクタート、ジ-イソステアリのマラートのようなヒドロキシエステル；ペンタエリトリールのエステル；

—10から40の炭素原子を有する合成エステル；

—オレイン酸アルコールのような $C_8$ から $C_{26}$ の脂肪アルコール；

—上記のものの混合物。

【0036】脂肪相は組成物の総重量の5から99%、好ましくは20から75%を占める。

【0037】本発明にかかる組成物はさらに、当該分野で通常使用される全てのフィラーを含有することができ、これらは例えば、場合によって親水性の乳化剤またはゲル化剤によって不透明化またはゲル化された水、抗酸化剤、精油、保存剤、香料、中性化剤、脂溶性ポリマー、保水剤、水分補給剤、ビタミン、エッセンシャル脂肪酸、サンフィルター等の化粧品または皮膚科的活性物質及びこれらの混合物である。これらのフィラーは組成物の総重量に対して0から20重量%、好ましくは0から10重量%である。好ましくは、組成物は少なくとも化粧品または皮膚科学的活性物質を含有する。

【0038】当業者であれば当然に本発明にかかる組成物の好ましい特性を阻害しないようにフィラーの種類及び量を適宜選択することが可能である。

【0039】本発明にかかる組成物は、スティック状の皮膚科学的色剤、皮膚、唇及び皮膚付属器のようなケラチン物質の手入れ剤、太陽光線防護剤、防臭剤やメイクアップ除去のような体の衛生関連製品の形態で提供することができる。当該組成物は皮膚や皮膚付属器や唇の手入れ製品(リップクリーム、寒さ、太陽光線、風から唇を保護するための製品、皮膚、爪及び毛髪の手入れ用クリーム)の形態をとることができる。

【0040】本発明にかかる組成物は又、皮膚のメイクアップ用の有色製品、特に手入れあるいはトリートメント効果を有することのあるファンデーション、頬紅及びアイシャドウ、小じわとり製品、アイライナー、体のメイクアップ用製品；手入れやトリートメント効果を有することのある口紅のような唇のメイクアップ用製品；マスカラのようなまつげ関連製品、眉毛及び髪の毛のためのクレヨン等の形態をとることも可能である。特に、本発明の組成物は化粧品および/または皮膚科的に活性な物質を含有することができる。

【0041】本発明にかかる組成物は化粧品として又皮膚科的観点から許容されるよう、ヒトの皮膚、皮膚付属器、及び唇に適用することを前提に生理学的に許容可能で毒性の無いことは当然である。化粧品として許容しうるとは、匂い及び質感に関して快適であることを意味する。

【0042】油溶解性の着色物質としては、スーダン赤、DC赤17号、DC緑6号、βカロチン、大豆オイル、スーダンブラウン、DC黄11号、DC紫2号、DCオレンジ5号、キノレイン黄を挙げることができる。これらは、入っている場合は、組成物の0から20重量%、好ましくは0.1から6重量%を占める。

【0043】染料は無色または有色で、鉱物性及びまたは有機材料、被覆を有するまたは有しないものである。鉱物性の染料としては、表面処理を行う場合もある二酸化チタニウム、ジルコニウムまたはセリウムの酸化物、

鉄またはクロムの酸化物、マンガシ、ラピスラズリの青、クロムの水素化合物及びフェリックブルーを挙げることができる。有機性顔料としては、カーボンブラック、DおよびC型顔料、コチニール、バリウム、ストロンチウム、カルシウム、アルミニウムのカーマインレーキを挙げることができる。顔料は組成物の総重量の0から40重量%、好ましくは1から35重量%、さらに好ましくは2から25重量%である。

【0044】真珠光沢剤顔料（または真珠光沢剤）は、チタン被覆マイカ、オキシクロロピスマスの無色真珠光沢剤、酸化鉄を含むチタンマイカ、フェリックブルーやクロムの酸化物を含むチタンマイカ、前述の有機顔料またはオキシクロロピスマスを有するチタンマイカ等の有色真珠光沢剤を挙げることができる。これらが含まれる場合は、これらは組成物の総重量の0から20重量%、好ましくは0.1から15重量%である。

【0045】本発明にかかる組成物は化粧品及び皮膚科の分野で通常使用されている方法で製造することができる。ポリマーを少なくとも軟化点以上の温度に昇温し、両親媒性化合物、着色物質、及びフィラーを添加して透明な溶液が得られるまでこれらを攪拌する方法によって得ることができる。こうして得られた均質な混合物を口紅の型のような適当な型に流し込むか箱またはコンパクト状の保存容器に直接流し込む。

【0046】本発明の又別の対象は、ヒトの皮膚、唇あるいは皮膚付属器の手入れ、メイクアップまたはトリートメント方法であって、上記に示した化粧製品である組成物をセラチン物質に適用することを含む方法である。

【0047】本発明は、また、エステル基によって骨格に結合した少なくとも4つの炭素原子を有する末端アルキ

#### 実施例1：口紅

－ユニクリア80	25.0%
－パーリーム油	56.0%
－ポリグリセリル－2ポリヒドロキシステアレート	10.0%
－顔料（褐色酸化鉄＋酸化チタニウム）	9.0%

準備：100℃において、ポリグリセリル－2ポリヒドロキシステアレートを使用してユニクリア80をパーリームオイルに溶解させ、次に顔料を添加する。これらを分散機（レイネリー）を使用して攪拌し、口紅の型に流し込んだ。このようにして、20℃においてTA-XT 2分析器によって測定した硬度が425gである口紅が得られた。このようにして得られた口紅は光沢を有しに

#### 実施例2：無水頬紅

－ユニクリア80	25.0%
－パーリーム油	35.1%
－オレイン酸グリセリル	31.25%
－顔料	100%の残部

スティック上の頬紅を実施例1と同様の方法で準備した。当該頬紅は光沢を有し、にじみを生じない。

#### 【0053】実施例3：口紅

ルまたはアルケニル鎖を少なくとも1つ有するポリアミド骨格ポリマーの使用であって、当該ポリマーはエステル基と少なくとも1つの室温で液状のHLBが8未満の両親媒性化合物を介して骨格に結合したポリマーの、硬度が20から2000g、好ましくは20から900g、さらに好ましくは20から600gの固形の形状を維持するに十分な使用を目的とする。当該脂肪相は化粧用組成物用のものである。

【0048】本発明は、また、エステル基によって骨格に結合した少なくとも4つの炭素原子を有する末端アルキルまたはアルケニル鎖を少なくとも1つ有するポリアミド骨格ポリマーの使用であって、当該ポリマーはエステル基と少なくとも1つの室温で液状のHLBが8未満の両親媒性化合物を介して骨格に結合したポリマーの光沢を有しおよび／またはにじみを生じないために十分な使用を目的とする。

【0049】本発明はまた、エステル基によって骨格に結合した少なくとも4つの炭素原子を有する末端アルキルまたはアルケニル鎖を少なくとも1つ有するポリアミド骨格ポリマーの使用であって、少なくとも1つによって構造化された液状脂肪相を少なくとも1つ含んで構造化された組成物であって、当該ポリマーは室温で液状でHLBが8未満の液体に結合した光沢を有してにじみを生じない化粧用組成物または生理学的に許容できる組成物の製造のための十分な量の使用を対象とする。

#### 【0050】

【実施例】以下に本発明を具体的に説明する。以下の記述においてはパーセントは全て重量パーセントである。

#### 【0051】

にじみが無い。この特徴は従来品であるランコム のルージュアブソリュを比較対照として専門家のパネルに比較してもらった結果によっても確認された。本発明の口紅は従来技術のものに比較して全ての被験者に関して光沢に優れ適用から2時間後の時点でにじみが少ないものであった。

#### 【0052】

この実施例においてはユニクリア80の代わりにユニクレア100を使用した点のみが実施例1と異なっている。

## 【0054】比較物

実施例1においてユニクリア80を、少なくとも4つの炭素原子を有しエステル基によってポリアミド骨格に結合したアルキルまたはアルケニル鎖の末端に反応基を有しないヘンケル社のポリアミドヴェルサミド(Verami

d)、次にヘンケル社のマクロメルト6212(Macromelt 6212)にかえて同様の製品を製造した。これらの製品は2相からなる完全に不均質なものである。これらはスティックとしての硬度を全く有していない。

---

フロントページの続き

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	(参考)
A 6 1 K	7/032	A 6 1 K	7/032
	7/035		7/035
	7/06		7/06
	7/32		7/32
	7/42		7/42
C 0 8 K	3/00	C 0 8 K	3/00
	5/00		5/00
	5/101		5/101
C 0 8 L	71/02	C 0 8 L	71/02
	83/04		83/04
	91/00		91/00